

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 2年 4月 1日

事業所名 JYU×JYUステーション（職員4名） 回答率:100%

	チェック項目	はい			どちらともいえない			いいえ			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	0						学習室は静かな環境になるよう別室を設けている。		
	2 職員の配置数は適切である	2	2	0							基準には合っているが、もう少し余裕がほしいので次年度は新入社員を1名採用予定。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	2	2							今現在、必要としている利用者がいないため特になし。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	2	1						ミーティングで話し合いの機会をもうけている。	全員参加のミーティングで業務改善の話し合いはしているが、毎日の業務に追われてしまう。次年度は、年間計画をしっかりとてたい。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2	0								
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0								
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	1	3								
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	2	0						順番に研修を受けている。	年に数回、全職員が研修の機会をもてるようにしたい。研修内容をみんなで共有するようにしている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	0								
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	2	2								
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	2	2	0							立案するメンバーが固定してしまっている。立案は皆が参加できるようにしたい。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	2	2	0						制作、学習、自然体験をバランスよく取り入れたいと考えている。	高学年になると利用時間が遅くなり、学習支援中心になりがちであるが、どの利用者も色々な活動が出来る様に準備している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	2	0						土曜日や長期休暇は、平日にできない活動を取りいれている。		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	2	2	0								
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	0	3	1							支援開始時間が急に変わる事が多く(学校行事等で)十分な打ち合わせができないので、週一でもいいからしっかりミーティングをしたいと考えている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	0							送迎後の振り返りをノートに記録しておくようにしたい。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	0						記入者が同じ人にならないよう心掛けている。		
関係機関や保護者との連携	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1	0								
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	2	0							まずは、計画的にガイドラインについてきちんとした読み合わせを行い、その後、基本活動について計画的に話し合いができるよう、今後計画を立てていきたい。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	1	1								
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2	0								
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	4	0							今現在、利用者に該当する方がいません。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	1	2								
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	0							職員間でまず、どのような場所にどのような事業所があり、どのようなサービスがあるのかを把握していくことから始めていきたい。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	2	2								
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	0							児童館の行事には積極的に参加するようにしている。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	2	2								
保護者への説明責任等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	1	0						送迎時にその日の様子を伝えられています。		
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	2	2								
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	0								
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	2	0						ライン等でいつでも連絡を受け付けています。	そのような場合、できるだけ早急に対応していけるようにしている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	1	3								
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1	0							全職員に内容はすぐ伝え、できるだけ早く対応するよう心掛けている。	
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0							毎月1回、お便りをだし、前の月の活動の様子や行事予定などを発信している。	
	35 個人情報に十分注意している	3	1	0						安全に十分留意し、施錠できる場所にて保管しています。		
	36 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1	0								
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	0								
非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	1	3	0							マニュアルは作ってあるが、読み合わせが不十分だった。次年度は注意したい。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	0	3	1							利用者が安全に過ごしていただくためにも、年に数回、訓練が実施できるように考えている。	
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	0						研修の案内があった場合はできるだけ参加するようにしている。		
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	2	2							今の利用者に対象者がいません。	
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	4	0						4月に家庭調査票を配布し、情報収集をしている。	今年度の利用者に対象者がいませんでした。	
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	2	1						何かあった時は、ミーティングで話し合い、記録に残している。	今後作成する予定である。準備中。	